

民航 日航乗員組合
労連 Tel. 747-7818

乗員新聞

481122
最終号

統一宣言 (要旨)

日本航空運輸乗員組合及び日本航空乗員組合は、組合員の統意に基づき今日、ここに統一する。

昭和39年、会社の事業計画の急速な拡大にともなう人べらし、外人導入制限違反などの「合理化」攻勢に対し、乗員の生活と権利を守るために立ち上がった我々に対し、会社は、40年5月、組合役員4名に違法不当な解雇を行ない、機長を組合から脱退させた。この攻撃に屈せず、ねばり強く闘いつづけた我々に対し、41年6月、会社は、不当差別、おどし等のあくどい手段をとり、分裂を行なった。

多くの仲間が、会社の不当なやり方に強い怒りを抱きながら組合を脱退し、運輸乗員組合が作られた。

乗員組合員には、機長昇格不当差別、賃金差別を行ない、被解雇者には、労働委員会の命令を守らず、解雇撤回の引きのばしをはがった。このような会社の不当労働行為は、職場を暗くし、労働条件は低下し、賃金も低くおさえられた。

「合理化」は急速に進められ、遂には訓練中の事故で仲間を失ない、47年には連続事故で多くの乗客・乗員の命を奪われた。分裂により失ったものはあまりにも大きかった。しかし、この会社の弾圧に対し闘いつづけた乗員組合8名と多くの運輸組合員は、民航労連・全日空・TDA乗員・全運輸省労組等、多くの仲間の支援にはげまされ、48年7月18日、不当解雇を撤回し、本日ここに統一を勝ちとった。この闘いの中で我々は、統一と団結が働く者にとっていかに大切なものであるかを深く学んだ。

我々は、今日統一を成し遂げた。今後、いかなる条件のもとでも統一と団結を守り抜くことを誓い、我々を支援してくれた多くの人々に深く感謝の意を表すると共に、この統一の力を、現在「管理職」の名のもとに非組合員化されている機長といふ解雇されるが判らない不安な状態におかれている訓練生との統一を勝ちとるための闘いを、ここに決意をあらたに開始することを宣言する。

昭和48年11月22日

日本航空運輸乗員組合
日本航空乗員組合

「小人数」の組合からなる乗員新聞としては、これが最終号です。
永い間、ご愛読ありがとうございました。